MASPRO

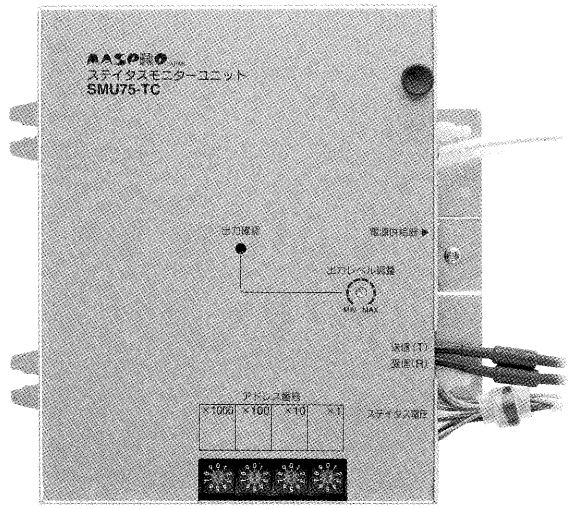
CATV ステイタスモニターユニット

取扱説明書

STATUS MONITOR UNIT
送信周波数 54.5MHz
受信周波数 73.5MHz

SMU75-TC

双方向ＣＡＴＶアンプに取付けて，アンプ本体や電源供給器の作動状態をステイタスモニターセンター装置で監視できるようにするユニットです。



適合アンプ

60TA-HG, 60TD-HG
60TB-HG, 60BA-HG

停電作動の監視が可能な無停電 電源供給器

MPS603 CD2，MPS603SFT，MPS605SFT
MPS605SFT2，MPS605T2，MPS605E
MPS605E2，MPS615ACS

MASter of PROduction
生産の覇者

大規模共同受信に対応する機能

豊富な監視・制御機能

双方向CATVアンプのフタや上りゲートの開閉，ハウジング内への浸水など，5項目の監視・制御機能を備えています。

無停電 電源供給器インバーター作動の監視

無停電 電源供給器のインバーター作動監視端子と接続して， 商用電源の停止によるインバーターの作動をステイタスモニターセンター装置で監視できます。

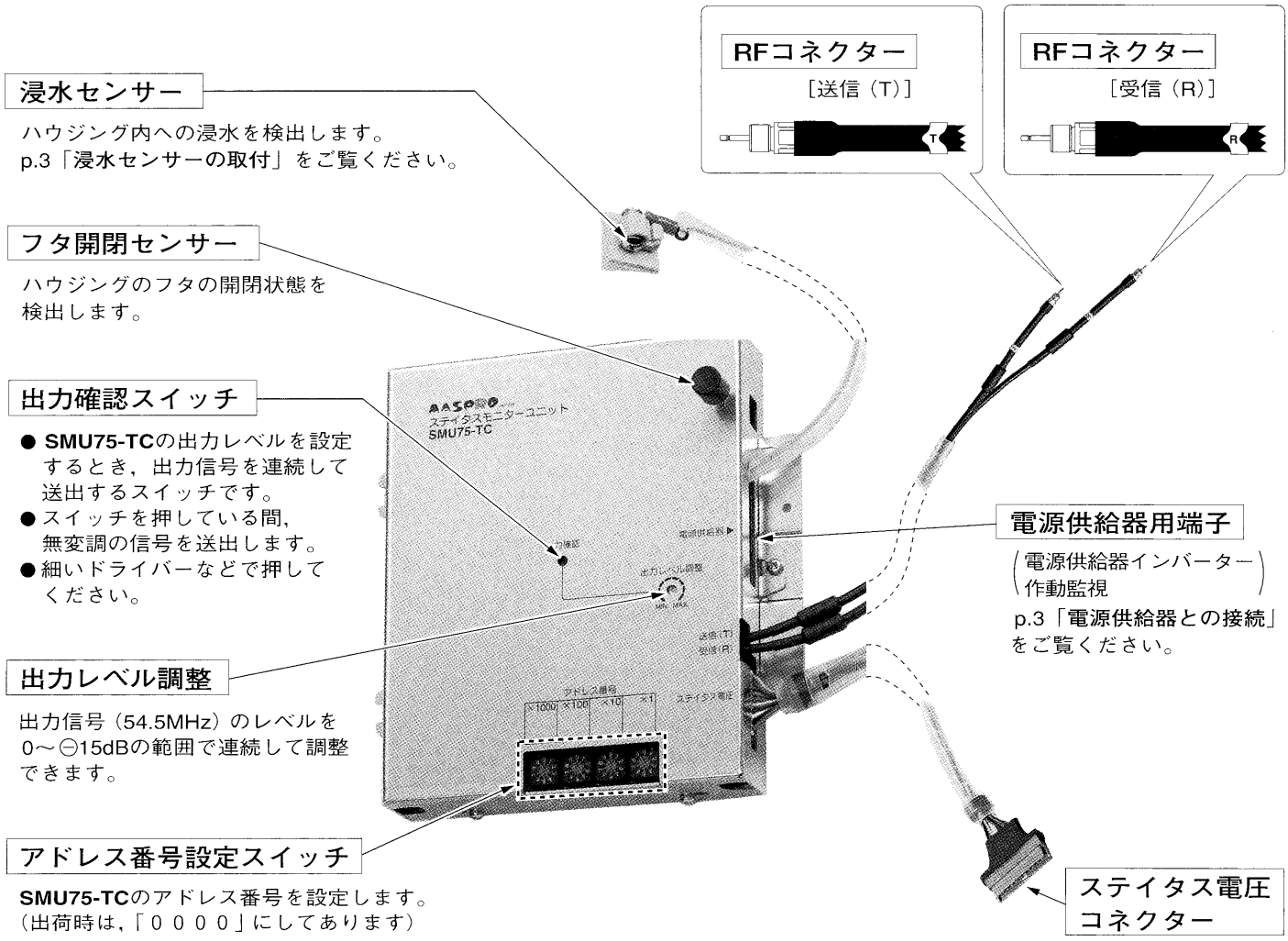
上りゲート開閉制御

双方向CATVアンプの上りゲートの開閉制御を，CATVセンターでおこなうことができますから，上り回線の流合雑音を最小限に保つことができます。

●ご使用の前に，この「取扱説明書」をよくお読みください。
●お読みになったあとは，保存してください。

マルチメディアの
MASPRO
=マスプロ電工=

各部の名称と機能



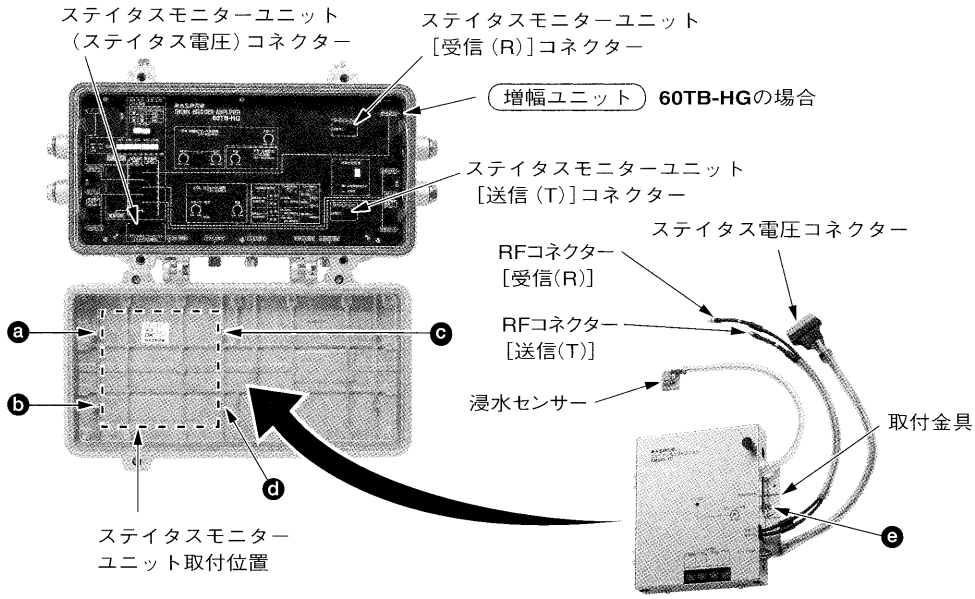
ユニットの取付

① 固定ビスⓐ ⓑ ⓒ ⓓを締付けてSMU75-TCをアンプのフタに取付けてください。最後に取付金具の固定ビスⓔを締付けてください。各固定ビスは，しっかりと締付けてください。

② 「ステイタス電圧コネクター」を増幅ユニットの「ステイタスモニターユニット(ステイタス電圧)コネクター」に接続します。

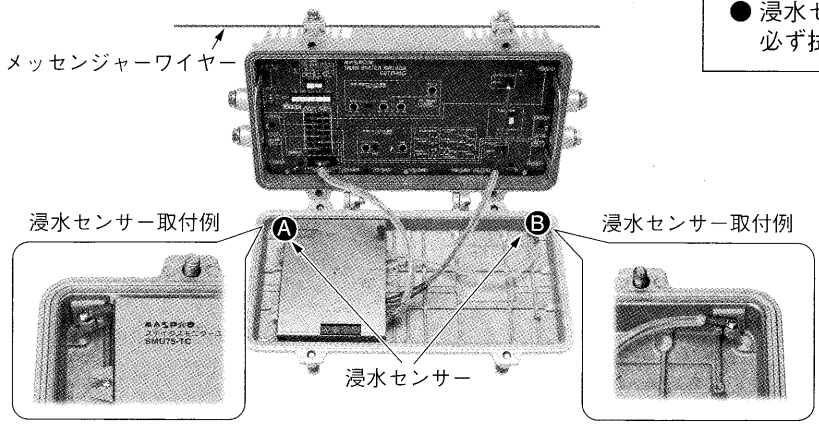
③ RFコネクター[受信(R)]，RFコネクター[送信(T)]を増幅ユニットの「ステイタスモニターユニット[受信(R)]コネクター」，「ステイタスモニターユニット[送信(T)]コネクター」に接続します。

④ 浸水センサーを取付けます。 p.3「浸水センサーの取付」をご覧ください。



浸水センサーの取付

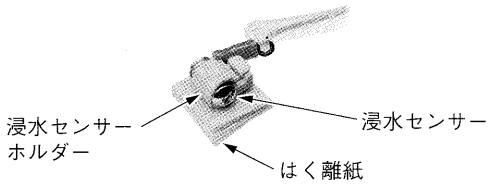
浸水センサーは，ハウジングをメッセンジャーワイヤーに取付けた状態で，低くなる方(Ⓐまたは Ⓑ)に取付けます。



ご注意

- 浸水センサーは，ハウジング内部に接触しないように取付けてください。接触するとステイタスモニターが誤作動します。
- 浸水センサーを張付ける面の油分・水分・ホコリなどを，必ず拭取ってください。

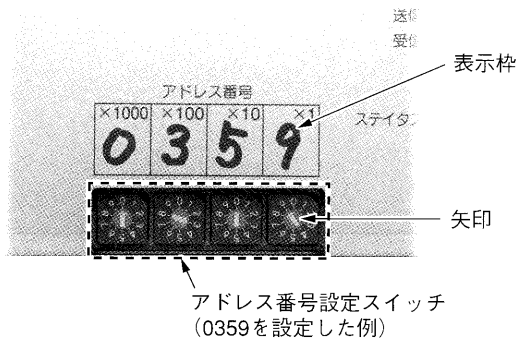
●裏面の，はく離紙をはがして張付けます。



アドレス番号の設定

調整用ドライバーで「アドレス番号設定スイッチ」を回し，「矢印」を指定の「番号」に合わせます。

- ●アドレス番号は，０００１～９９９９まで，任意の番号を設定することができます。
- ●設定後は，アドレス番号をユニットの表示枠内に書き入れておくと，メンテナンスのときに便利です。



出力レベルの設定

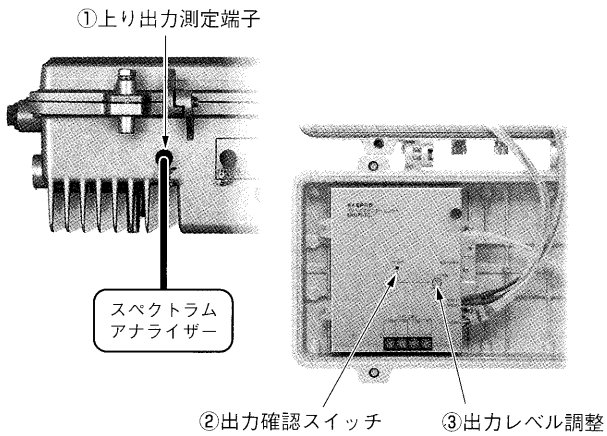
ご注意

出力レベル設定をするときは，調整用ドライバーを使用してください。無理に回すと，こわれることがあります。

① スペクトラムアナライザーをアンプの上り出力測定端子に接続します。

② **SMU75-TC**の「出力確認スイッチ」を押しながら，出力信号（54.5MHz）のレベルを測定します。

③ **SMU75-TC**の「出力レベル調整」を調整用ドライバーで回して，運用レベルより 10dB 低い値に調整します。
詳しくは，アンプの取扱説明書の「**標準入・出力レベル表**」をご覧ください。



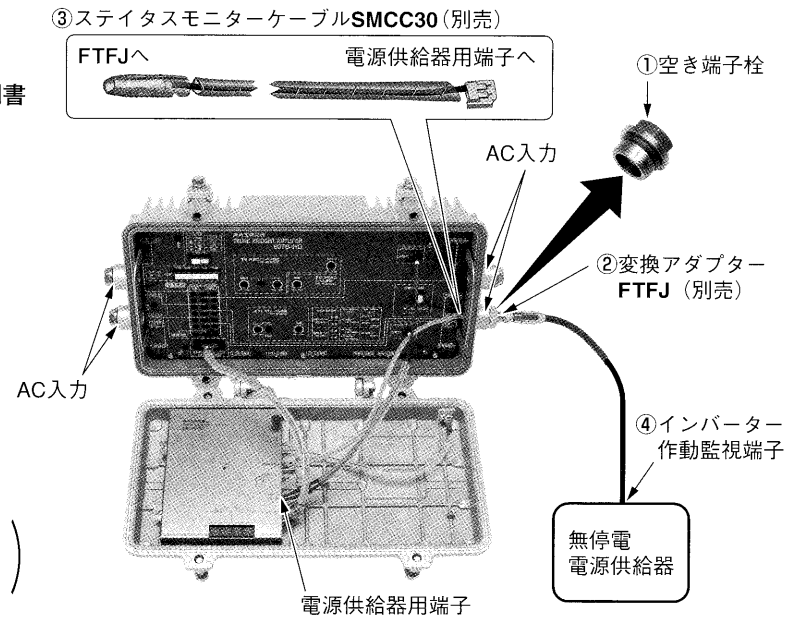
電源供給器との接続

無停電 電源供給器側の接続は，電源供給器の取扱説明書をご覧ください。

接続には，別売の変換アダプター **FTFJ** と別売のステイタスモニターケーブル **SMCC30** が必要です。

① 「AC 入力」の空き端子栓を外します。
② 別売の変換アダプター **FTFJ** を取付けます。
③ 別売のステイタスモニターケーブル**SMCC30**を **SMU75-TC** の「電源供給器用端子」と変換アダプター **FTFJ** へ接続します。
④ 変換アダプター**FTFJ**と無停電 電源供給器の「インバーター作動監視端子」を接続します。

（写真は右側の「AC入力」を使用して接続した例です。左側の「AC 入力」も同様に使用できます。）



正しく使用していただくために

ステイタスモニターが正常に作動しないときは，次のチェックをしてください。

アドレス番号は正しいですか。
- ●アドレス番号設定スイッチのチェック

前段の双方向CATVアンプからステイタスモニターセンター装置までの上りゲート設定は正しいですか。
- ●ステイタスモニターの上り回線に使用しているゲートが「開」になっているかチェック

RFコネクターの［受信(R)］と［送信(T)］は，増幅ユニットに正しく接続してありますか。
- ●RFコネクターの［受信(R)］と［送信(T)］のチェック

接続用のコネクタープラグは，正しく根元まで挿入してありますか。
- ●RFコネクター・ステイタス電圧コネクターのチェック（**SMU75-TC**と増幅ユニットの接続）
- ●ステイタスモニターケーブル**SMCC30**のチェック

以上の方法でも，トラブルが解決できない場合，お近くの当社支店・営業所または工事営業部までお問合わせください。

規格表

MASPRO

項目	規格
送信周波数	54.5MHz（占有帯域幅 ± 250kHz）
受信周波数	73.5MHz
変調方式	FSK(受信) ／ PSK(送信)
データ信号伝送速度	9600bps
搬送波ON・OFF比	50dB以上
最大出力レベル	93dBμ
出力レベル調整範囲	0 ～ ⊖15dB以上（連続可変）
入力レベル範囲	39 ～ 61dBμ
スプリアス	⊖50dB以下 ※ （**SMU75-TC**の出力レベルが93dBμのとき 10 ～ 55MHz，70 ～ 602MHzの帯域において）
電源供給器用端子入・出力形式	無電圧接点入力 （出力電圧DC5 ± 0.25V，電流13mA最大）
電源	DC12V
外観寸法	158（H）× 148（W）× 46（D）mm
質量（重量）	約600g

※ ステイタスモニターユニットをアンプに取付けた状態での特性です。

監視・制御項目

1. 2値監視項目
   - ●停電作動
   - ●上りゲート開閉
   - ●フタ開閉
   - ●浸水
2. 制御項目
   - ●上りゲート開閉

マスプロの規格表に絶対うそはありません。
ご理解と信頼あるデータにご期待ください。

MASter of PROduction
生産の達者

製品向上のため 仕様・外観は変更することがあります。

マルチメディアの
＝マスプロ電工＝
本社〒470-0194（本社専用番号） 愛知県日進市浅田町
営業部 TEL名古屋(052)802—2244
工事営業部 〃 (052)802—2225
技術相談 〃 (052)805—3366
インターネットホームページ www.maspro.co.jp

支店・営業所
沖縄 (098) 854-2768
鹿児島 (099) 812-1200
宮崎 (0985) 25-3877
熊本 (096) 381-7626
長崎 (095) 864-6001
福岡(支) (092) 531-3861
北九州 (093) 941-4026
下関 (0832) 55-1130
徳山 (0834) 32-2954
広島 (082) 230-2351
松江 (0852) 21-5341
岡山 (086) 252-5800
松山 (089) 973-5656
高知 (088) 882-0991
高松 (087) 865-3666
姫路 (0792) 34-6669
神戸 (078) 843-3200
大阪(支) (06) 6635-2222
工事営業部 (06) 6632-1144
京都 (075) 646-3800
津 (059) 234-0261
岐阜 (058) 275-0805
名古屋(支) (052) 802-2233
工事営業部 (052) 804-6262
豊橋 (0532) 33-1500
静岡 (054) 283-2220
松本 (0263) 57-4625
福井 (0776) 23-8153
金沢 (076) 249-5301
新潟 (025) 287-3155
横浜 (045) 784-1422
渋谷(支) (03) 3409-5505
工事営業部 (03) 3499-5631
秋葉原 (03) 3255-7335
青戸 (03) 3695-1811
八王子 (0426) 37-1699
千葉 (043) 232-5335
さいたま (048) 663-8000
前橋 (027) 263-3767
水戸 (029) 248-3870
宇都宮 (028) 660-5008
郡山 (024) 952-0095
仙台 (022) 786-5060
盛岡 (019) 641-1681
秋田 (018) 862-7523
青森 (017) 742-4227
函館 (0138) 53-7355
札幌 (011) 782-0711
釧路 (0154) 23-8466
旭川 (0166) 25-3111
北見 (0157) 61-0480

2K55-368
B-24-4368-1L
APR.,2002